

# すけびうち 舗飛内遺跡発掘調査速報

(所在地) 栃木県河内郡上三川町大字多功字舗飛内地内 (調査面積) 200㎡  
(調査期間) 令和2年10月～12月 (調査主体) 上三川町教育委員会生涯学習課

舗飛内遺跡は、田川西岸の台地上に位置しています。本遺跡のすぐ西側には奈良時代の正倉があったとされる多功天満宮<sup>たごう</sup>や多功遺跡があり、北に3kmほど行くと古代の役所跡である国指定史跡上神主・茂原官衙遺跡<sup>かみこうぬし もばらかんが</sup>が所在しています。本遺跡周辺では、奈良時代の土器や瓦が多く拾えることから、古来より遺跡があることが知られていました。



## 調査の成果について

今回の調査は、平成30年度から令和2年度にかけて実施している上三川町遺跡地図作成事業に伴う遺跡の範囲と内容確認調査として行いました。調査は、調査区域に一定間隔ごとにトレンチと呼ばれる細い試掘坑<sup>いこう</sup>を掘り、遺構の有無を確認しました。

調査の結果、奈良時代の氷室跡<sup>ひむろ</sup>と考えられている円形有段遺構1基、古墳時代の竪穴建物跡<sup>たてあな</sup>7軒、時期不明の溝跡2条が見つかりました。本遺跡は、見つかった遺構と出土する土器から古墳時代から奈良時代にかけての集落遺跡であることが分かりました。

氷室は、氷などを保管するための施設と考えられています。本遺跡の氷室跡は上幅約3m、深さ2.2mあります。覆土中からは多くの土器や瓦が出土しており、7世紀代の須恵器<sup>すえき</sup>の“はそう(瓦へんに泉)”も見つかっています。はそうは、胴部を開いた穴に竹管などを差して水差しのよう使った土器です。

氷室は、古代の役所である官衙関連遺跡や官衙近隣の集落遺跡に多いことから、本遺跡周辺に官衙関連施設があることが想定できます。



氷室跡（SK-1）の完掘状況

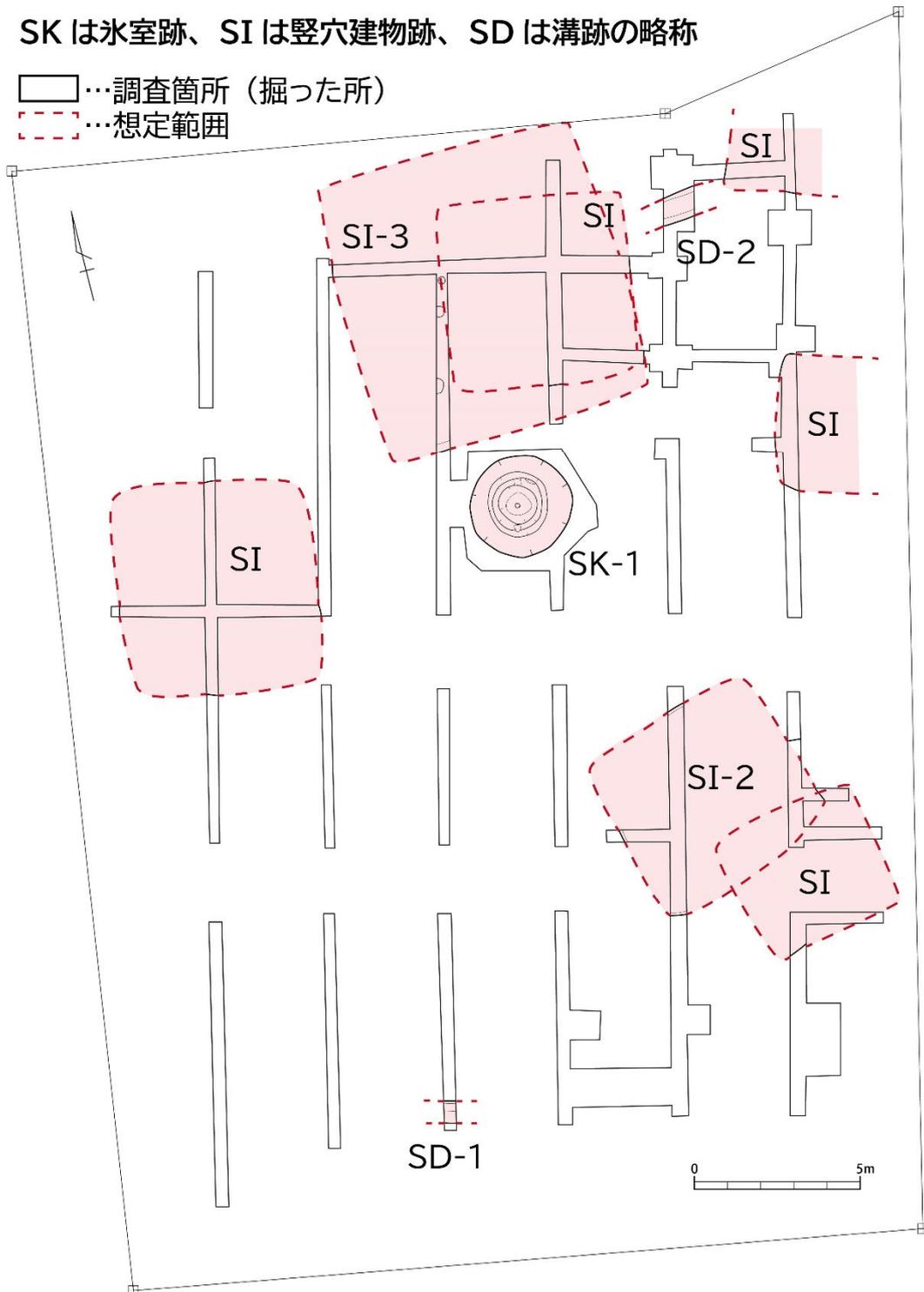


出土した須恵器はそう（左）と土師器高坏（右）

SKは氷室跡、SIは竪穴建物跡、SDは溝跡の略称

□…調査箇所（掘った所）

□…想定範囲



舗飛内遺跡 遺構配置図